


ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>保育科 准教授</p> <p>川上 英明 (かわかみ ひであき)</p> <p>KAWAKAMI Hideaki</p>
所属	保 育 科
学位	博士 (教育学) (東京大学)
資格・免許	小学校教諭一種免許状 全国保育士養成協議会認定保育実習指導者
学歴・職歴	<p><学歴></p> <p>2016年 3月 宮城教育大学教育学部初等教育教員養成課程 言語・社会系社会コース 卒業 (学士 (教育学))</p> <p>2018年 3月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース修士課程 修了 (修士 (教育学))</p> <p>2022年 1月 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース博士課程 修了 (博士 (教育学))</p> <p><職歴></p> <p>2018年 4月 国際テレビシティ小山看護専門学校 兼任講師 (2019年3月まで)</p> <p>2020年 4月 横浜保育福祉専門学校 兼任講師 (2021年3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院短期大学保育科 専任講師 (2023年3月まで)</p> <p>2021年 4月 山梨学院大学健康栄養学部 兼任講師 (現在に至る)</p> <p>2023年 4月 山梨学院短期大学保育科 准教授 (現在に至る)</p>
担当科目	<p>教育原理 道德教育の理論と方法 教育職論 地域学校経営論</p> <p>教育哲学 教育学特論 保育学特論 道德教育特論</p> <p>基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ 修了研究</p> <p>道德教育指導論 (山梨学院大学健康栄養学部)</p>
専門分野	教育哲学・教育思想史
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・京都学派の教育思想史研究 ・吉満義彦と上野直昭に関する日本思想史研究 ・「子どものための哲学 (p4c)」の理論と方法
競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都学派教育学」における教育と政治の関係をめぐる思想史的研究 (日本学術振興会科学研究費助成事業 若手研究 2023年4月～2028年3月 課題番号 JP23K12726) ・新発見資料が映し出すもう一つの日本哲学史——吉満義彦文庫と上野直昭関係資料の研究 (日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(B) 研究代表者: 川口茂雄 2025年4月～2029年3月 課題番号 JP25K00391)
所属学会	<p>日本教育学会 教育哲学会 教育思想史学会 幼児教育史学会</p> <p>日本哲学プラクティス学会 実存思想協会 ハイデガー・フォーラム</p>
メッセージ	<p>保育の実践知と原理的な知とをつなげる、生きた知識の獲得を目指してください。また、保育者・教育者である以前に、一人の市民として、教養を身につけ、自ら判断し、問題を解決する姿勢を持つことを期待します。</p>

教育	
2025年4月～2026年3月	
教育方針	子どもを含めたあらゆる傷つけられやすい人々をケアする思想を持ち、その立場から社会問題を考えることのできる保育者・教育者の養成
授業	<p>授業の工夫</p> <p><教育原理> テキストを用いた反転授業を実施している。受講生は、次回の授業で扱う範囲を予習し、授業時に小テストを行い、その解説を行いながら、テキストの内容のみならず補足的な知識も説明するようにした。授業終了後に毎時間、小レポートを課し、それに対する回答を次回授業の冒頭で行うことで、卒業必修で受講生が多い講義であるにもかかわらず、双方向的なやり取りができるように工夫した。</p> <p><教育職論> 小学校教諭という職業に関する基本的な知識から、教育職に関する社会問題や哲学的な議論まで、幅広く紹介するように心がけた。なお、哲学的な議論については、補助教材として映像資料を活用し、理解を深めさせるように工夫した。</p> <p><教育哲学> 哲学に触れる機会が少ない学生も取り組みやすいように、授業では、「哲学ウォーク」や「哲学対話」を取り入れた。また、グループでのプレゼンテーションを課し、「主体とエージェンシー」「戦争と平和」などのテーマについて調査し発表する学習形態を取り入れた。</p> <p><教育学特論> 学生同士のディスカッションを重視するため、毎回のグループをくじ引きで決めている。授業の流れは、まず本時のテーマを提示し、その内容についての自分の考えをワークシートに記述する。その記述内容をグループ内で共有した上で、テーマに関する講義を行う。その後、講義内容を踏まえて、再びグループでディスカッションを行う。最後に、一連の活動を通して考えたことを、ワークシートに記入するというものであった。こうすることで、毎回異なるメンバーと交流する機会が設けられ、さらに講義内容を深めることも狙いとしている。</p>
	授業改善のための取組

教育 (つづき)	
2025 年 4 月～2026 年 3 月 (つづき)	
	<p>ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)</p> <p><卒業演習Ⅰ> 大半の時間が数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに割かれてしまったものの、限られた時間を用いて、来年度に向けた研究テーマの洗い出しの作業を行った。</p> <p><卒業演習Ⅱ> 前期は、卒業レポートのテーマを構想させ、後期からの執筆に向けた準備をさせた。また、その合間に、松浦優『アセクシュアル アロマンティック入門:性的惹かれや恋愛感情を持たない人たち』(集英社、2025 年)の輪読を行った。後期は、各自の研究テーマについての先行研究の収集・調査や、調査方法の検討、執筆に際する注意事項などを、基本的には個別に指導した。</p> <p><修了研究> 研究テーマの焦点化、先行研究の収集と分析、インタビュー調査の質問項目の検討、論文構成の検討などを、基本的には個別に指導した。また、それと並行して下記の文献を輪読した。</p> <p>【前期】 安藤寿康『教育は遺伝に勝てるか?』(朝日新聞出版、2023 年) 森口佑介『つくられる子どもの性差:「女脳」「男脳」は存在しない』(光文社、2024 年)</p> <p>【後期】 鳥羽和久『君は君の人生の主役になれ』(筑摩書房、2022 年) 上田 薫『人間形成の論理』(黎明書房、1964 年)</p>
ゼミ	<p>卒業レポート・ 修了研究テーマ</p> <p><卒業レポートテーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ育児のメリットとデメリット —インターネットと共に関わる育児へ— ・『HUG っと!プリキュア』に見るジェンダーの多様性とその保育との関係性 ・保育科学生の「親ガチャ」に対する意識調査 ・昔と今におけるごっこ遊びの実態や変化 ・モンスターペアレントと教育者 —保護者の想いの背景を理解するためには— ・現代の大学生はどのような昼食を摂取しているのか ・『それいけ!アンパンマン』における「ばいきんまん」のキャラクター分析 ・兄弟順位とパートナー選択の関係性 ・保育科学生の就職意識とモチベーションの変化 —アンケート調査を通して— <p><修了研究テーマ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・低出生体重児および保護者に対する専門職の援助の実態 —保育士・保健師・保護者のインタビューを通して— ・シュタイナー教育における道德教育の意義 —「個性」と「自己」に焦点を当てて— ・保育現場と家庭における ICT 活用の実態調査 —保育者と保護者へのインタビューを通して— ・鶴見俊輔におけるネガティブ・ケイパビリティと教育論の関連性

教育 (つづき)	
2025 年 4 月～2026 年 3 月 (つづき)	
課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学バスケットボール部 顧問 ・短期大学ダンス部 顧問 ・ユク・ホイ『芸術と宇宙技芸』(伊勢康平訳、春秋社、2024 年) および廖欽彬ほか編『越境する知としての西田哲学』(京都大学学術出版会、2025 年) の読書会を主催
2025 年 3 月以前	
主な教育業績	2024 年 2 月 専攻科ゼミの指導学生が、全国保育士養成協議会関東ブロック協議会主催の「第 37 回学生研究発表会」において研究成果を発表した。

研究		
2025年4月～2026年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） 京都学派の越境—田邊哲学の系譜における 〈教育と政治〉のゆくえ— （単著）	2026年 1月	東京大学出版会 全 306 頁
（著書） 甦る田邊哲学—田辺元生誕 140 周年記念論 集— （共著）	2025年 12月	法政大学出版局 担当部分： <u>川上英明</u> ・大友あかり・藤田亜美・堤 田泰成・胡婧・川口茂雄「「もう一つ の日本哲学史」のほうへ：田辺元の上 野直昭宛書簡の思想史的意義」および 上野直昭宛書簡の翻刻（291-306 頁）
（学術論文） <u>査読付き</u> 田邊元の哲学と森瀧市郎の教育思想—京都 学派の教育思想史における「類の倫理」の位 置づけ— （単著）	2026年 3月	日本教育学会『教育学研究』 第 93 巻第 1 号
（学術論文） 「上田薫文庫」に見る京都学派教育学の断 片—田邊元著『哲学入門 補説第二』への書 き込みについて—（短報） （単著）	2026年 3月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第 46 巻
（学術論文） 教育人間学のハイデガー—京都学派におけ る「存在論と人間学」の問題— （共著）	2025年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラ ム』第 34 号（156-162 頁） 著者：森七恵・ <u>川上英明</u> ・高谷掌子・ 門前斐紀・井谷信彦 担当部分： 「5. 「人間学のハイデガー的形態」を 政治化する—三木清・九鬼周造から中 井正一の人間学へ—」（159-160 頁）
（学術論文） <u>査読付き</u> 「無媒介の媒介」と主体性の哲学—中井正 一による京都学派との対決の意義— （単著）	2025年 5月	教育哲学会『教育哲学研究』 第 131 号（72-90 頁）

研究 (つづき)		
2025年4月～2026年3月 (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(その他：学会発表) 原子力時代における「類の倫理」の教育思想 —田邊元の哲学から森瀧市郎の核絶対否定 への歩み— (単独)	2025年10月	教育哲学会 第68回大会 (於：神戸大学)
(その他：学会発表) コロキウム5「民衆による知の生成を問う —戦後文化運動における「生活・記録・サー クル」の思想史— (共同) *川上報告「〈この世界の片隅で〉発揮され る歴史的主体性—京都学派の哲学から中井 正一を経て山代巴へ—」	2025年9月	教育思想史学会 第35回大会 (於：立教大学) 企画：西本健吾・川上英明 司会：西本健吾 報告：西本健吾、久島裕介、川上英明 指定討論者：町村悠香
2025年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(著 書) 安部孝編『教育原理—教育・保育をひらく —』 (共著)	2024年3月	みらい 担当部分：第7章 日本の教育の思想
(学術論文) 査読付き 京都学派教育学の〈亀裂〉—木村素衛と森 昭、あるいは形式的表現と政治的実践の対 立の根底— (単著)	2024年9月	教育思想史学会『近代教育フォーラ ム』第33号 (64-74頁)
(学術論文) 京都学派の緊張と教育学への越境—田邊元 の哲学と森昭の教育思想— (単著)	2022年1月	東京大学 (博士論文)
(学術論文) 査読付き 田邊元と森昭における偶然性の問題—戦後 教育学の発達論に伴う必然性を相対化する ために— (単著)	2021年12月	日本教育学会『教育学研究』 第88巻第4号 (610-621頁)

研究 (つづき)		
2025年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) <u>査読付き</u> 田邊元と森昭の経験主義批判における認識論の問題－京都学派教育学における「行為的自覚」の系譜－ (単著)	2021年 9月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』第30号 (147-157頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 森昭における社会性と個性をめぐる問題構制－田邊元のハイデガー批判との関連性－ (単著)	2020年 11月	教育哲学会『教育哲学研究』第122号 (1-19頁)
(学術論文) <u>査読付き</u> 人間生成の歴史性と自然性－京都学派の思想圏における森昭のハイデガー解釈－ (単著)	2020年 9月	日本教育学会『教育学研究』第87巻第3号 (367-378頁)
(学術論文) A Philosophical Study on Evidence-based Education and "Subjectification": Exploring a New Conception of Citizenship Education in an Age of Measurement (共著)	2020年 3月	『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター研究紀要』第5号 (34-42頁) (Hideaki Kawakami, So Fujieda, Naoki Tanabe, Hiromu Higuchi, and Yu Iwase)
(その他：学会発表 (フォーラム報告)) 京都学派教育学の〈亀裂〉－木村素衛と森昭、あるいは形式的表現と政治的実践の対立の根底－ (単独)	2023年 9月	教育思想史学会 第33回大会 (於：同志社大学、招待あり)
(その他：学会発表 (ポスター)) <u>ピア・レビュー付き</u> The Tension Between Individuality and Sociality in the Philosophy of Education: Focusing on the Concept of Being-in-the-World in Martin Heidegger and Akira Mori (単独)	2019年 8月	World Education Research Association, 10th Focal Meeting (at Gakushuin University)

社会貢献	
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等	
2025年4月～2026年3月	
2025年 8月	学校法人岩田学園いづみ幼稚園園内研修会 講師
2025年 8月	山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座 講師
2025年 4月	山梨学院高大連携事業 講師
2025年3月以前（主なもの）	
2025年 2月	学校法人岩田学園いづみ幼稚園公開保育 アドバイザー
2025年 1月	学校法人岩田学園いづみ幼稚園 幼児教育アドバイザー訪問事業
2024年 5月	山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座 講師
2024年 4月	山梨学院高大連携事業 講師
2024年 4月	やまなし幼児教育センター 幼児教育アドバイザー
2023年 8月	山梨学院幼稚園園内研修 講師
2023年 4月	山梨学院高大連携事業 講師
2023年 4月	やまなし幼児教育センター 幼児教育アドバイザー（現在に至る）
2023年 2月	山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座 講師
2018年 11月	教育思想史学会第10期事務局 幹事（～2021年3月）
受賞 ※個人、所属団体	
2022年 9月	第19回教育思想史学会奨励賞（個人）